

# 1 む 古文を読む 徒然草 1

名 前 年 組 番

/ 100 点

(各20点×5)



◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

## 【古文】

高名の木のぼりといひしをのこ、人を捉て、高き木にのぼせて、こずゑを切らせしに、いとあやふく見えしほどは、いふ事もなくて、降るゝ時に、軒長ばかりに成りて、<sup>①</sup>あやまちすな。心して降りよ」と言葉をかけ侍りしかば、「そのかばかりになりては、飛び降るとも降りなん。如何にかく言ふぞ」と申し侍りしかば、「その事に候ふ。目くるめき、枝あやふきほどは、己が恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕る事に候ふ」といふ。

あやしき下膚<sup>(げらふ)</sup>なれども、<sup>②</sup>聖人<sup>(せうじん)</sup>のいましめにかなへり。鞠<sup>(まり)</sup>も、難<sup>(かた)</sup>き所を蹴<sup>(け)</sup>出してのち、やすく思<sup>(おも)</sup>へば、必ず落つと侍るやらん。

(兼好法師「徒然草」より引用)

## 【現代語訳】

有名な木登りといわれた男が、人を指図して、高い木に登らせて、枝を切らせたときに、とてもあぶなく見えた間は、何も言うことなく、降りるときに、軒の高さぐらいになつて、「しくじるな。注意して降りよ」と言葉をかけました。のを、「このくらいの高さになれば、飛び降りても降りられるだろう。どうしてそのように言うのか」と申しましたところ、「そのことでござります。(人は、高くて) 目が回り、枝があぶない間は、(登っている者) 自身が恐れていますので申しません。しくじりは、簡単な所になつて、必ずいたすものでござります」と言う。身分の低い者だが、聖人の教えに合致している。蹴鞠でも、難しい所を蹴り上げた後に、簡単だと思うと、必ず落としてしまつとか申すよ

- 1 「<sup>A</sup>をのこ」、「<sup>B</sup>こずゑ」、「<sup>C</sup>あやふく」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。
- <sup>A</sup> ( )  
<sup>B</sup> ( )  
<sup>C</sup> ( )

- 2 <sup>①</sup>あやまちすな。心して降りよ」は、だれの言った言葉ですか。【古文】中から十四字で書きなさい。


- 3 筆者は、どのような考え方を指して「聖人のいましめにかなへり」と言つたのですか。当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 他人の注意を聞かない人間は事故を起こす

という考え方。

イ 事故は何でもないと思える所でこそ起ころうという考え方。

ウ 自分が自信のない所になると事故を起こす

という考え方。

エ 事故はどんな場所でもいつでも起こりうる

という考え方。

# 2 む 古文を読む

## 徒然草 2

◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

【古文】

仁和寺にんわじにある法師、年寄るまで石清水いはしみずを拝ひまざりければ、心こころうく覚おぼえて、あるとき思おもひ立ちて、ただ一人、徒步徒歩より詣まつでけり。極樂寺・高良など拝ひみて、かばかりと心得おもて帰りにけり。さて、かたへの人ひとにあひて、「年としごろ思おもひつること」、果たたしはべりぬ。聞きしにも過ぎて尊そんくこそおはしけれ。そもそも、参さんりたる人ひとごとに山さんへ登のりしは、何な事ことかありけん、ゆかしかりしかど、神かみへ参さんること本意ほいなれと思おもひて、山さんまでは見みず。」とぞ言いひける。

少しのことにも、先達せんだつはあらまほしきことなり。

(兼好法師「徒然草」より引用)

【現代語訳】

仁和寺にいたある法師が、年を取るまで石清水八幡宮を拝んだことがなかつたので、残念に思つて、あるとき思い立つて、ただ一人で、徒步で参詣さんけいした。極樂寺や高良社などを拝んで、これだけだと思い込んで帰つてしまつた。

そして、仲間に向かつて、「長年願つていたことを、果たしました。(話に)聞いていたのにも勝つて尊くいらつしやいました。それにしても、参詣した人がみんな山に登つていたのは、何事があつたのか、知りたかつたけれども、神に参詣することが本来の目的なのだと思つて、山(の上)までは見ていません。」と言つたのだった。

少しのことにも、指導者がいてほしいものである。

1

「かばかりと心得て」とあります。このときの法師の考え方として、当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。( )

イ 石清水をすべて参詣した。

ウ 石清水である極樂寺を拝めたので満足だ。

エ 拝んだのが石清水かどうか自信はない。

2

「年としごろ思おもひつること」とあります。法師はどうなことを長年願つていたのですか。

3

「参さんりたる人ひとごとに山さんへ登のりし」とあります。参詣した人がみんな山に登つていたのはなぜですか。

4

「ゆかしかりしかど」とあります。このとき法師はどうしたいと思ったのですか。当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。

( )

ア 話したい

イ 見たい

ウ 知りたい

エ 行きたい

(各20点×5)

名 前 年 組 番

/ 100点

古文を読む  
枕草子 1

◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

春はあけぼの。<sup>②</sup>やうやう白くなりゆく山際、少  
し明かりて、<sup>あ</sup>紫だちたる雲の細くたなびきたる。  
夏は夜。<sup>③</sup>月のころはさらなり、闇もなほ、<sup>やみ</sup>蠛<sup>キモ</sup>  
の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つな  
ど、ほのかにうち光りて行くもをかし、雨など  
降るもをかし。<sup>オ</sup>

## 【現代語訳】

春は明け方。だんだん白んでゆく山際（の空）が、少し明るくなつて、紫がかつた雲が細くたなびいている（のが良い）。

夏は夜。月の（明るい）ころは言うまでもない（ことで）、闇（夜のころ）もやはり、螢がたくさん飛び交つて（のが良い）。また、ただ一つ二つなど、ほのかに光つて（飛んで）行くのも趣（おもろい）がある。雨など降るのも趣がある。

「月のころはさらなり」<sup>③</sup>とあります。これは  
どういふことですか。

〔1〕「春はあけぼの」とあります、このあとに省略されている言葉として、当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。

〔2〕「やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて」とありますが、これはどんな様子を表していますか。

ア がつらし イ がさびし  
ウ がわろし エ がをかし

( ) ( )

2 「やうやう白くなりゆく山際、少し明かりて」  
とありますが、これはどんな様子を表してい  
ますか。

	2	
—やうやう白くなりゆく山際、少し	(2)	ア ガつらし
とあります、これはどんな様子を		イ ガさびし
ますか。		エ ガをかし

3 「月のころはさらなり」とあります。これはどうしたことですか。

4 「ほのかにうち光りて行く」とあります。そうするものは何ですか。次の（ ）に当てはまる言葉を【古文】中から書きぬきなさい。

一つ二つの（ ）。

5 この文章は何について述べていますか。次の（ ）に当てはまる言葉を【現代語訳】中から書きぬきなさい。

季節ごとに筆者が（ ）を感じるものについて。

# 4 む 古文を読む 枕草子2

◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

## 【古文】

① うつくしきもの 瓜にかきたるちごの顔。  
雀の子の、ねず鳴きするにをどり来る。二つ三  
つばかりなるちごの、いそぎてはひ来る道に、

いとちひさき塵のありけるを目ざとに見つけて、  
いとをかしげなるおよびにとらへて、大人など  
に見せたる、いとうつくし。頭はあまそぎなる

ちごの、目に髪のおほへるを、かきはやらで、  
うちかたぶきて物など見たるも、うつくし。

② おほきにはあらぬ殿上童の、さうぞきたて  
られてありくもうつくし。をかしげなるちごの、  
あからさまにいだきて遊ばしうつくしむほどに、  
かいつきてねたる、いとらうたし。

殿上童||貴族の子。作法の見習いのため出仕する。

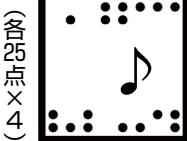
(清少納言「枕草子」より引用)

## 【現代語訳】

① かわいらしいもの。瓜にかいてある幼児の  
顔。雀の子が、(人が)ねずみの鳴き声をまね  
るとちよんちよんと飛びはねてくるの。二つ三  
つほどの幼児が、急いではつてくる途中に、と  
ても小さいちりがあつたのを目ざとく見つけて、  
とてもかわいらしい指にとらえて、大人などに  
見せたのは、本当にかわいらしい。頭はおかつ  
ぱにした幼児が、目に髪がかぶさっているのを  
(手で)かきのけたりしないで、首をかしげて  
物などを見ているのも、かわいらしい。  
② 大きくはない殿上童が、きれいに着飾らせ  
られてゆききするのもかわいらしい。かわいら  
しい幼児が、ほんのちよつと抱いて遊ばせかわ  
いがつてている間に、とりすがつて寝たのは、た  
いそう愛らしい。

名	前	年	組	番
---	---	---	---	---

/ 100 点



(各25点×4)

1 ① 「うつくしき」とあります。これはだ  
れの行動ですか。当てはまるものを次から一つ  
選び、その記号を書きなさい。 ( )

2 ② 「うちかたぶきて」とあります。これはだ  
れの行動ですか。当てはまるものを次から一つ  
選び、その記号を書きなさい。 ( )

3 ① 段落で筆者は、「うつくしき」ものをいく  
つあげてありますか。漢数字で書きなさい。  
( ) つ

4 ③ 「いとらうたし」とあります。筆者はだれ  
がどのようにした様子を、愛らしく感じていま  
すか。次に続けて、現代語で書きなさい。  
自分がちょっと抱いて遊ばせかわいがつてい  
る間に、

自分がちょっと抱いて遊ばせかわいがつてい  
る間に、

# 5 む 古文を読む

## 平家物語 1

名 前 年 組 番

/ 100 点

(各20点×5)



◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

一の谷の合戦で敗れた平家は海上に逃れていく。源氏の武将熊谷次郎直実が敵を求めて海岸に行くと、一騎の若武者が沖へ逃れようとしていた。呼び戻して組み合い、いざ討とうとするが、若武者は、わが息子の小次郎と同じ十六歳ぐらいの美少年であった。

【古文】

「そもそもいかなる人にてましまし候ふぞ。名のらせ給へ、助けまるらせん」と申せば、「汝はたそ」ととひ給ふ。「物、そのもので候はね

ども、武藏国の住人、熊谷次郎直実」となり申す。「さては、なんちにあうては、なのるまじいぞ。なんちがためにはよい敵ぞ。名のらずとも首を取つて人に問へ。見知らうするぞ」とぞのたまひける。熊谷、「あつぱれ大將軍や。此

人一人討ちたてまつたり共、まくべきいくさに勝べきやうもなし。又、討ちたてまつらずとも、勝べきいくさにまくる事もよもあらじ。小次郎が薄手負たるをだに、直実は心ぐるしうこそ思ふに、此殿の父、討たれぬと聞いて、いか計かなげき給はんずらん。あはれ、たすけたてまつらばや」と思ひて、うしろをきつと見ければ、土肥・梶原、五十騎ばかりでつゞいたり。

土肥・梶原＝源氏方の武将。

(「平家物語」より引用)

【現代語訳】

「いつたいどのようなお方でいらっしゃいますか。□□□、お助け申そう」と申すと、「そなたはだれだ」と問われる。「たいした者ではございませんが、武藏の国の人、熊谷次郎直実」と名のり申す。「では、そなたに向かっては名のるまいぞ。そなたにとつては（わたしは）よい敵だ。（わたしが）名のらなくて、首を取つて人に尋ねよ。（顔を）見知つておるであろうぞ」とおつしやつた。熊谷は「ああ、立派な大将軍であることよ。この人一人討

ち申し上げたとしても、負けるはずの戦いに勝つはずもない。また討ち申さなくとも、勝つはずの戦いに負けることは、まさかないだろう。小次郎が軽い傷を負つたのでさえ、この直実はつらく思うのに、このお方の父は、討たれたと聞いて、どんなにお嘆きなさるだろうか。ああ、お助け申し上げたいものだ」と思つて、後方をさつと見ると、土肥・梶原が五十騎ほどで続いていた。

1 【現代語訳】の□に当てはまるように「名のらせ給へ」を現代語に改めて書きなさい。

2 「あつぱれ大將軍や」と熊谷が思つたのはなぜですか。当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 熊谷を立派な武将だとほめているから。

イ いさぎよく討たれようとしているから。

ウ 平家軍の負け戦だと知つてているから。

（

）

3 直実が同じ父親としての立場から、若武者の父の心を思いやつていることが分かる一文を

【古文】中から探し、初めの五字を書きぬきなさい。

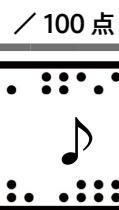
オ 自分が討たれることによって、沖にいる味

方を助けようとしているから。

4 「あはれ、たすけたてまつらばや」とあります。その直実の思いを実現させるのが難しいことを暗示している表現を、【古文】中から二十字以内で探し、初めの五字を書きぬきなさい。(記号も一字と数える。)

# 6 む 古文を読む 平家物語2

名 前 年 組 番



(各20点×5)

◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

那須与一は、平家の船に立てられている扇を射ることを源氏の大将の義経から命じられた。義経の命令に背くことは許されない与一は、扇を射るために海へ乗り出した。

## 【古文】

① 与一、目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が國の神明、日光の權

現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくはあの

扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損

するものならば、弓切り折り自害して、人に再

び面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へん

とおぼしめさば、この矢外させたまふな。」

と、心の内に祈念して、目を見開いたれば、風

も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

（「平家物語」より引用）

## 【現代語訳】

与一は、目を閉じて、

「どうか八幡大菩薩よ、我が故郷の神々、日光の權現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神よ、願わくはあの扇の真ん中を射させてくださいませ。これを射損じるものならば、弓を切り折つて自害して、人に二度と顔を合わせるつもりはありません。もう一度郷里に迎えてやろうとお思いなさいますならば、この矢が外れないようにしてください。」

と、心の内に念じて、目を見開いたところ、風も少し吹くのが弱まり、扇も射やすそうになつていた。

1 ① 与一、目をふさいで何をしたのですか。

(1) このときの状態として当てはまるものを次から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 風が強く吹いている。

イ 風がすっかり吹きやんでいる。

ウ 風が少し弱くなっている。

エ 波が荒くなっている。

2 ② 射させてたばせたまへ」とあります。どんなん意味ですか。【現代語訳】中から書きぬきなさい。

3 ③ いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば」とあります。が、与一が本国へ迎えられるためにはどうすることが必要ですか。

4 ④ 「目を見開いたれば」とあります。このときの状況は与一にとつてどんな状況になつていましたか。

# 7 む 漢文を読む 漢文（論語）

名 前 年 組 番



(各20点×5)

/ 100点

◆次の文章を読んで、問い合わせに答えなさい。

**I**  
**【書き下し文】**  
 子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

**【訓読文】**  
 子曰「<sup>①</sup>学<sup>ビテ</sup>而<sup>②</sup>不<sup>レバ</sup>思<sup>ハ</sup>則<sup>チ</sup>罔<sup>シ</sup>。  
<sup>②</sup>思<sup>ヒテ</sup>而<sup>①</sup>不<sup>レバ</sup>學<sup>バ</sup>則<sup>チ</sup>殆<sup>シト</sup>。」  
 (孔子「論語（為政）」より引用)

**【現代語訳】**  
 孔子が言う、「書物を読み、学んでも、よく考えなければ、物事の道理をはつきりつかむことができない。それと逆に、いくら考えても、読書をして学ばなければ、独断におちいる危険がある。」と。

孔子は紀元前五世紀ごろの中国の思想家。

**II**  
**【書き下し文】**  
 子曰はく、「己の欲せざるところは、人に施すことなけれ。」と。

**【訓読文】**  
 子曰「<sup>③</sup>己<sup>□</sup>所<sup>□</sup>不<sup>レバ</sup>欲<sup>セ</sup>、  
<sup>④</sup>勿<sup>レバ</sup>施<sup>スコト</sup>於<sup>人ニ</sup>。」  
 (孔子「論語（顏淵）」より引用)

**【書き下し文】**  
 子曰「<sup>③</sup>己<sup>□</sup>所<sup>□</sup>不<sup>レバ</sup>欲<sup>セ</sup>、  
<sup>④</sup>勿<sup>レバ</sup>施<sup>スコト</sup>於<sup>人ニ</sup>。」  
 (孔子「論語（顏淵）」より引用)

**【現代語訳】**

孔子が言う、「自分がしてもらいたくないことは、人にしてはいけない。」と。

**1** 「思<sup>ヒテ</sup>」とあります。ここでの「思<sup>ヒテ</sup>」とは、どのような意味ですか。【現代語訳】中の言葉を適切な形に直して五字で書きなさい。

**2** 「思<sup>ヒテ</sup>而<sup>②</sup>不<sup>レバ</sup>學<sup>バ</sup>則<sup>チ</sup>殆<sup>シト</sup>」に、書き下し文に合うように、「レ点」を一つ書きなさい。

**3** Iの文章で孔子が言いたかったことはどのようなことですか。次から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 書物を読んで学ぶことが大事なので、じっくり読み返す時間を持つべきである。

イ 自分が考えたことを、書物に書いてまとめておくべきである。

ウ 学ぶことと、考えることは両立できないので、同時に合わないようにはすべきである。

エ 学ぶことと、考えることは片方だけ行つても足りないので、両立すべきである。

**4** 「己<sup>□</sup>所<sup>□</sup>不<sup>レバ</sup>欲<sup>セ</sup>」には、□の部分の送りがながぬけています。書き下し文に合うように、送りがなを二か所に書きなさい。

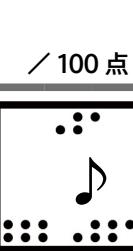
己<sup>カレト</sup> 所<sup>スコト</sup> 不<sup>レバ</sup> 欲<sup>セ</sup>

「己<sup>カレト</sup> 所<sup>スコト</sup> 不<sup>レバ</sup> 欲<sup>セ</sup>」に、書き下し文に合うよう、  
 「一・二点」を書きなさい。

勿<sup>カレト</sup> 施<sup>スコト</sup> 於<sup>人ニ</sup>

# 8 む 漢文を読む 漢詩（春望）

名 前 年 組 番



(4)は完答、各25点×4

◆次の漢詩を読んで、問い合わせに答えなさい。

春望

杜甫

白髪になつた頭をかきむしると（抜けて）いつそう薄くなり、かんざしさえ全く挿せなくなろうとしている。

【書き下し文】

国破れて山河在り

城春にして草木深し

時に感じては花にも涙を濺ぎ

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

烽火三月に連なり

家書万金に抵たる

白頭搔けば更に短く

渾て簪に勝へざらんと欲す

【漢詩】

国破山河在  
城春草木深  
感時花溅泪  
烽火連三月  
家書抵萬金  
白頭搔更短  
浑欲不勝簪

- 1 この漢詩の形式を漢字四字で書きなさい。
- 2 「花にも涙を濺ぎ」とあります。本来は美しいと感じられる花を見て涙を流すというのと同様の作者の心情が感じられる部分を【書き下し文】中から八字で書きぬきなさい。
- 3 「家書万金に抵たる」とあります。どんなことを表していますか。
- 4 この漢詩の内容の流れに合つよう、次のアシストを順に並べかえ、その記号を書きなさい。

国（の都）は破壊されても山や河は（元のまま）存在しており、町は春になつて草や木が生い茂つてゐる。

時世（のありさま）に（悲しみを）感じては花を見ても涙を流し、（家族との）別れを恨んでは鳥の鳴き声を聞いても心を痛ませる。

戦いののろしは三か月間上がり続け、家族からの手紙は大金に相当する（ほど貴重だ）。

【現代語訳】

国（の都）は破壊されても山や河は（元のまま）存在しており、町は春になつて草や木が生い茂つてゐる。

時世（のありさま）に（悲しみを）感じては花を見ても涙を流し、（家族との）別れを恨んでは鳥の鳴き声を聞いても心を痛ませる。

戦いののろしは三か月間上がり続け、家族からの手紙は大金に相当する（ほど貴重だ）。

- 4 この漢詩の内容の流れに合つよう、次のアシストを順に並べかえ、その記号を書きなさい。
- ア 作者は自分の老いを嘆いている。
- イ 作者の目にふれたままの情景を描いている。
- ウ 戦争の終わりが分からず、作者は家族との別離のつらさを嘆いている。
- エ 荒れ果てた春の景色を背景にして、作者は悲しみ、びくびくしている。
- （ ） → （ ） → （ ） → （ ） → （ ）